

4. 脅迫文(メール)・電話対応

1. 日頃から留意すべき事項

○保護者への対応

- ・一斉メールに登録をしてもらう。
- ・児童・生徒の通学路について把握してもらう。
- ・児童・生徒の下校時間について把握してもらう。

○子どもへの指導

- ・できるだけ複数人で登下校をする。
- ・外出するときは、家の人に行き先を必ず告げる。
- ・知らない人についていかない。無理やり連れて行かれそうになった時は、近隣の家やお店等に逃げ込むか大声で助けを求める。また、そのような事態に遭遇した場合は、すぐに保護者や教職員に連絡する。

○学校園等の対応

- ・保護者との連携を密にする。
- ・不審者対応訓練として、保護者引き取りの下校、集団下校等の訓練を実施する。
- ・中学校区や区ごとでの情報共有の体制を構築する。
- ・管理職不在時に緊急事態が発生したときに対応できる体制を構築する。
- ・通学路にある「こども110番の家」の場所や利用方法の仕方について保護者や子どもに知らせる。

2. 緊急対応のポイント

＜具体的事例＞

「今日の下校時に子どもを誘拐する」との内容が記載されたメールが、学校代表メールに届いているのを校長が発見した。

教育委員会への報告

- ・速やかに学校教育部に報告し、対応を協議する。



校長の対応

- ・校長が緊急の職員会議を招集し、状況を説明するとともに、情報を収集、整理する。
 - ・全教職員が共通理解のもと組織的に対応する。
- ※堺市役所や複数校にメールが届いている場合は、市教委の指示のもと対応する。



関係機関との連携

- ・警察等に状況を説明し対応を相談するとともに、巡回等の協力を依頼する。
- ※学校にメールがあった際は、学校から警察に通報する。



保護者への対応

- ・必要に応じて、メール等により保護者に注意喚起する。



PTAや自治会との連携

- ・PTA会長や自治会長等に状況や対応策を説明し、理解と協力を得る。

○子どもの安全確保のための留意点

- ・子どものプライバシーや人権に配慮し、保護者に情報を提供するとともに、連携して対応にあたる。
- ・校種に応じた下校方法を選択しつつ、子どもの安全を確実に確保する。
- ・保護者や幼児の不安を取り除くなど、心のケアに努める。
- ・警察に巡回の強化を依頼するとともに、教職員や保護者が協力して園周辺の巡回を組織的に行う。

3. 事後の対応のポイント

脅迫文等における緊急対応が発生した場合は、事態が収拾した後、子どもの心のケアを行う。

(I－6「心のケア」参照)